

月刊島民

中之島

Vol.47 2012 6/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

大阪の「ウェストゲート」を旅する。



ナカノシマ大学

7月講座は2本立て!

「大阪の祭りど水。」

&

「古地図で読み解く
大阪の歴史」

申し込み受付中!

大阪の「ウェストゲート」を旅する。

中之島の西部にほど近い川口・江之子島周辺は、かつては大阪の商業や流通、外交の重要地点であり、多くの歴史と物語を有している。同じように川に囲まれたエリアであるため中之島とのつながりも深く、大阪に訪れた近代化の流れの中で捉えられる共通項も多い。中之島から少し足を延ばし、大阪の西の玄関口を歩いてみよう。

取材・文／江口由夏 大迫力（本誌）



初代・長谷川貞信が描いた『浪花百景』より「川口の新大橋」（大阪府立中之島図書館蔵）

WESTGATE TRIP 橋に残る記憶をたどる。

大阪のウェストゲートを歩く旅は、中之島の西端から川口や江之子島にかけての「帯がどんな場所であったのか知ることから始めよう。手がかりになるのは、かつての島々をつないでいた橋だ。



〔改正増補国宝大阪地図〕（1863年／大阪市都市工学情報センター蔵）

木津川橋



現在の木津川橋の東詰に、橋の歴史を記した石碑がある。

慶応4年（1868）に設置された木津川橋は、江之子島と対岸の川口をつなぐための橋だった。当時の川口には税関ができるなど、居留地へとつな

江之子島から川口への橋。

と下之橋という2本の橋があった。明治8年（1875）、このうちの下之橋とはほぼ同じ位置に架けられたのが雑喉場橋。今は橋の照明灯を復元した記念碑が残されるのみとなったが、もう一つ、この橋があった頃の記憶を留めるのが塩昆布で有名な老舗「神宗」だ。天明元年（1781）創業、嘉永年間に雑喉場に店を移した「神宗」がのれんを掲げていたのが、まさにこの橋の東詰だった。淀屋橋にある本店には、雑喉場橋の照明灯のレプリカが置かれている。「材料を選ぶ目や食材を活かす技を磨いた雑喉場での時間を忘れることのないように」との想いからだ。

雑喉場と江之子島をつなぐ橋。

河村瑞賢が治水工事を行う少し前の

之島の西端と接するこの一帯は、大川から分かれた堂島川と土佐堀川が再び合流し、水量が増える地点。古地図で見るとわかりやすいが、下流には九条島がその流れを遮るようであったため、大雨が降るたびに洪水が起こった。また、上流からの土砂が堆積して船が入れなくなるなど問題は絶えなかった。これを救ったのが豪商・河村瑞賢。貞享元年（1684）、幕府の命により、川が大阪湾へと一直線に流れるように、九条島の開削工事を指揮して行った。新しい川は「安けく治むる川」との願いを込めて、安治川と名付けられた。この九条島の東の端あたり（後に川口と呼ばれるようになる地帯）に架けられたのが安治川橋だった。九条島からその周辺に開発された新地へと渡るための橋で、大洪水のたびに流されては架け替えられたという。その後、明治6年（1873）に新しく架けられた安治川橋は、当時誕生したばかりの川口居留地（P5）への交通の便を図るため、西洋技術を取り入れた最新式のものだった。旋回式可動橋と呼ばれ、高いマストの船が通る時にはなんと橋桁が旋回して通れるようにする仕組み。当時の人々はこれを見て「磁石橋」と呼び、大阪名所と喝采を浴びた。

中 之島の西端と接するこの一帯は、大川から分かれた堂島川と土佐堀川が再び合流し、水量が増える地点。古地図で見るとわかりやすいが、下流には九条島がその流れを遮るようであったため、大雨が降るたびに洪水が起こった。また、上流からの土砂が堆積して船が入れなくなるなど問題は絶えなかった。これを救ったのが豪商・河村瑞賢。貞享元年（1684）、幕府の命により、川が大阪湾へと一直線に流れるように、九条島の開削工事を指揮して行った。新しい川は「安けく治むる川」との願いを込めて、安治川と名付けられた。この九条島の東の端あたり（後に川口と呼ばれるようになる地帯）に架けられたのが安治川橋だった。九条島からその周辺に開発された新地へと渡るための橋で、大洪水のたびに流されては架け替えられたという。その後、明治6年（1873）に新しく架けられた安治川橋は、当時誕生したばかりの川口居留地（P5）への交通の便を図るため、西洋技術を取り入れた最新式のものだった。旋回式可動橋と呼ばれ、高いマストの船が通る時にはなんと橋桁が旋回して通れるようにする仕組み。当時の人々はこれを見て「磁石橋」と呼び、大阪名所と喝采を浴びた。

安治川橋

下／安治川橋が旋回する様子を記した錦絵をあしらった石碑が、今も川口2丁目に残っている。右／瑞賢の功績を讃える河村瑞賢紀功碑。



頃から（1650年前後）、船場の西の端の鷺島に魚屋が集まり始め、雑喉場と呼ばれるようになってきた。江戸堀川や京町堀川などが流れ込んでいた百軒堀川という川の東岸で、川を挟んで西側には江之子島という小さな島が浮かんでいた。

船場側と江之子島の間には、上之橋

雑喉場橋



左／雑喉場橋は、新なにわ筋のあたりを流れていた百軒堀川が埋め立てられた昭和39年（1964）に同時に姿を消した。今は記念碑が残る。上／「神宗 淀屋橋店」にはパネル展示などがあり、その長い歴史を知ることができる。

がる新しい街並みが生まれつつあった。明治初期に長谷川貞信によって描かれた錦絵からも、当時の華やいだ街の雰囲気伝わってくる。明治9年（1876）には橋脚や高欄などが一部鉄製になり、橋の中央を車・馬用として、日本で初めての歩車分離橋となった。錦絵に馬に乗る人が描かれているのはそのためだろうか。その後は鉄橋となり、市電開通後は3つのアーチを持つ堂々たる橋を経て、現在の姿に。街の様子は両岸ともすっかり変わってしまったが、江之子島と川口を結ぶ橋として現役で活躍中だ。

雑喉場、鷺島へ。

現在の伏見町あたりにあった魚市場が、船場の西の端・鷺島へ。川近くにできた市場は、約300年にわたって賑わった。



雑喉場の賑わいは錦絵にも描かれた。『浪花百景』より「雑喉場」（大阪城天守閣蔵）

料」によれば、鷺島の風景は商人たちに「四辺清爽」と映ったようで、川に囲まれた立地も好まれたようだ。

その後、雑喉場はどんどん発展し、江戸時代の半ばには「天下の台所」たる大坂の名所の一つとなっていた。『撰津名所図会』の「雑喉場魚市」に付された文章には「王祥が鯉も松江の鱸もこの中にあるべきとぞおもはれる」とある。「王祥が鯉」とは、親孝行で有名な古代中国の青年が継母のために鯉を獲ってきたという伝承のことと思われる。それが大坂にあるというのはいかなりオーバーなのだが、それほど全国津々浦々から魚が集まっていたことがわかる。また『浪華の賑ひ』という本には、6月（旧暦）からは夜市があり、篝火をたいて売り買いが行われたと書かれており、その繁栄ぶりはすさまじかったようだ。

長らく続いた雑喉場だったが、物価の統制や公衆衛生の観点から制定された中央卸売市場法のために、昭和6年（1931）、大阪市中央卸売市場へと統合されることとなった。大阪の食卓を支える市場の歴史は、大阪の西で連綿と紡がれているのである。



江之子島1丁目にある「雑喉場魚市場跡」の碑。

今

はなき雑喉場とは、どのような場所だったのだろうか。魚市場が鷺島へ移ったのは交通の問題が大きかった。船場の真ん中では、出荷が増えると東横堀川の入口が混雑してしまい、魚の鮮度が低下し、特に夏場は生魚の取り扱いに不便が生じるのだ。そ

んな中、3月～10月までは鷺島で、11月～2月までは船場の本店に帰って商売をするという間屋が表れ、その後だんだんと本店を鷺島へと移す店が増えていくようになる。こうして市場の主力が移ると、鷺島が雑喉場と呼ばれるようになった。『大阪雑喉場魚問屋史

時

は幕末。安政5年（1858）に5カ国と修好通商条約締結。

元治元年（1864）に廃止された大坂船手（西国から入航の船舶の監視などを担う）の屋敷跡が外国人居留地として整備されることになった。これが川口居留地である。明治へと元号が変わるまでに、できたての波止場には川口運上所（後の税関）ができ、木津川を挟んだ江之子島と川口の間には木津川橋が架けられた。文明開化の波は大阪のどこよりも早く川口に迫っていた。



準備された居留地26区画には、まずイギリスを中心とした貿易商人たちが住み始めた。彼らは天下の台所と名高い大阪での経済効果に期待を

寄せ、また外交官やお雇い外国人と違い、貿易商人や宣教師たちは居留地に住むしかなかったために住居を確保しようとして居留地へ殺到した。

しかし、その期待はあっけなく崩れていく。川口波止場は河口から遠く、水深が浅いせいで外国からの大型船舶は、小型船に積み替えて運行しなければならなかった。加えて大阪の経済力が衰え始めた兆しも見えたことから、彼らは落胆し、やがて外国商人たちは拠点を巨港・神戸へと移していく。

WESTGATE TRIP

川口居留地の記憶。

日米修好通商条約が結ばれたことで、来る大阪開港に向け外国人受け入れの準備が始まった。白羽の矢が立てられたのは大阪西端。かつて洪水の元凶として人々を悩ませていた九条島の北の先端に位置する川口である。

さらに、桃山学院史料室で長く川口居留地について研究している西口忠さんは、こうも指摘する。「川口居留地衰退の原因は神戸・大阪間に鉄道が開通したこと、商取引の習慣の違いによるトラブル、取り締まりの厳しさなど

によるものです」。事実、居留地廃止時に留まっていた商会は1社しかなか

ったという。そのうえ度重なる大洪水で流れ込む土砂のために、川口はいよいよ世界の窓口の座を神戸に奪われてしまう。

貿易港からキリスト教伝道の地へ。

外国商人たちが去り始めた一方で、明治維新後の川口にはホテルや西洋料

理などの外国の生活様式が導入されてきた。中之島に移転する前に自由亭ホテルが開業したのもこの川口。商人たちが去ったあとは一帯が寂しくなったが、その後には宣教師たちが住み始めた。彼らは人の集まる地を求め、切支丹禁制の高札が撤去されたばかりの日

本で布教を行うべく、長崎から、ある



レンガ造りの川口基督教会。夕陽に照らされる様子に、西に向かって開けている大阪の地形を思い出す。写真／浜田智則



開館当時の工業奨励館の内部。上は機械作業室、下は資料展示室。
写真提供／大阪府立産業技術総合研究所

いははるばる母国から川口にやって来ていた。明治17年（1884）には26区画のうち20区画がキリスト教関係施設だったという。桃山学院やブルー学院など現在も残るミッションスクールの多くもこの地で生まれている。学問と云えば男のするものという考え方が圧倒的だった日本において、大半は女性の自立を目指す女子学校が占めていたのも外国人居留地ゆえである。

こうして川口居留地は貿易港からキリスト教伝道の地となった。宣教師の要望で10区画拡大されたおかげで、外国人たちは新たに開かれた運動場でボーリングやサッカーなどのスポーツに興じ、木津川など居留地を囲む川で水泳を楽しんだ。住む場所が限られていたとはいえ、宣教師の定期会議に家族総出で遠出した折には、箕面で滝を眺めたり、有馬温泉まで赴いて羽根を伸ばしていたようだ。「有馬には外国人御用達のホテルもありました」と西口さんは教えてくれた。

やがて華僑の街に。

しかし、明治32年（1899）に川口居留地は廃止。旧居留地・雑居地にやって来たのは多くの華僑たちだった。西口さんは、神戸や横浜の行商目的の華僑とは異なる「川口華商」に注目している。「もともと周囲の雑居地に住んでいた華僑に加え、新しく大阪への

「江之子島政府」のあった時代。

WESTGATE TRIP

目まぐるしく変貌する川口居留地の対岸で、江之子島にも新しい波がやって来る。明治7年（1874）、江之子島に大阪府庁が移転してきたのである。

川口に居留地が造られたのと同様に、江之子島もまた当時の大阪にとつては海に開けた「ブロンティア」として捉えられていたようだ。第4代大阪府知事の渡邊昇は、赴任するや大阪湾方面を見渡して「必ずや大阪は西に向かつて発展し、天保山を玄関とする殷賑なる大大阪が出現するよう、この場所（江之子島）がその中心であるべきだ」と語り、庁舎も西向きに建てさせたという（『西区史』第3巻）。

そうして竣工した大阪府庁は、西洋式建築としては大阪で2番目に建てられたものであり、中央にドームのある壮麗な外観や金色に輝く玄関の菊のご紋を仰ぎ見て、人々は「江之子島政府」と呼んだという。明治26年（1893）

にはレンガ造りの府会議事堂も建てられ、西大阪随一の美しい景観を誇った。面白いのは、一時期ではあるが大阪市役所がこの府庁舎内に間借りしていたことだ。特例によって大阪府知事が市長を兼任していたが、特例の廃止に伴い市庁舎をどこに建設するかが問題になっていた。堂島や津村別院（北御堂）などあちこち候補は挙がったものの、適切な場所が定まるまで府庁舎の一部を借用することに落ち着いた。

しかし市庁舎の用地探しは難航し、その後もいくつかの場所を転々とする。翌明治32年12月、木津川橋東詰に木造2階建ての小さな仮庁舎を建設して移転。下写真左の小さな建物がそれである。明治44年（1911）には中之島に正式な庁舎を建設することが市会で決議されたものの、財政状態が思わしくなく、工事が手がついてなるかわからなかった。それまで江之子島の狭く古い仮庁舎を使い続けるよりはと、明治45年（1912）には堂島に再び仮庁舎を建設して移転している。ちなみに、この時まで大阪市は自前の議場を持たず、議事堂も府会のもを借用し

ていたという。結局、最終的に市役所が中之島への移転を果たしたのは大正10年（1921）のことだった。

街の誇りだった江之子島政府。

江之子島政府は大正15年（1926）、大阪府庁の大手前への移転をもって約50年の歴史に幕を閉じた。半世紀の間に地元の人たちの胸には我が街の財産としてしっかりと刻まれたようで、移転後に建物と敷地が民間に払い下げられることに決まった際

には、反対運動が起こり陳情書が提出され、計画は中止。外観は保存されることとなり、昭和4年（1929）大阪府工業奨励館として再スタートを切ることになった。

江之子島政府があった時代、対岸には雑喉場もあったのであり、シビックセンターと魚市場がすぐ近くにあった光景はぜひ見てみたい思いがする。それはまた近代化の最中にあった大阪の中で、川口や江之子島といった土地が前途有望なベイエリアとして輝いていた時代でもあった。



川口居留地にあった「ウキルミナ女学校」（以下すべて桃山学院蔵）。立ち並ぶ子供たちの奥に人力車を確認できる。当時は川口基督教会のすぐ隣の区画に建っていた。

航路が開かれたことで中国北部から單身赴任する商社マンが著しく増えました。彼ら川口華商のために、居留地跡には『行棧』と呼ばれる事務所兼宿泊所がたくさん作られていました。

神戸や横浜のような飲食店街とはまた違う中華街が形成された川口にも、戦前までは中国人が営む店が多くあり、財界や政界ではそういった立派な中華料理店での接待がステータスであったという。理髪店なども評判がよく、遠方からの客もいたようだ。だが日中戦争の幕開けとともに彼らも国に引き上げ、大阪の玄関口としてもはやされた川口一帯も陰りを帯びるようになった。



時計などを扱っていたファブル・プラント商会。



明治32年、居留地廃止を受けて開かれたお別れ会。



木立の奥にあるのはキリスト教の聖バルナバ病院。

川口基督教会の歩いた道。

川口華やかなりし頃の記憶を留めているものは、今や川口基督教会のみとなった。大正時代に創建され、何度かの改修を経ながらも移り変わる川口の景色を見守ってきた場所である。「阪神淡路大震災でこの教会も大被害を受け、一時はすべて取り壊すという考えもありました。でも多くの方々の声で修復に至ったのです」と、礼拝堂の修復跡を指し示しながら岩城聰司祭は話す。この立派な建物に惹かれて訪れる写真家も少なくない。

明治2年（1869）、川口基督教会の前身である小礼拝堂を開いたのは、文明開化した大阪に最初に移住したという宣教師・ウィリアムズだった。大阪初の日本人信徒もここ川口基督教会で生まれ、発足時200人だった信徒も、居留地廃止時には447人。キリスト教禁制下の設置にしてこの規模は、当時とても大きなものだったらしい。「私の曾祖母も川口基督教会に通うひとりでした。結婚での揉め事も自身で解決した強い女性だったと聞いています。女子学校が多く生まれた地でもあるので、川口には自立した女性が多かったことでしょうね」と岩城司祭。今も600人もの信徒が、この清らかな空間を心の拠り所になっている。



川口基督教会 司祭 岩城 聡さん

川口基督教会

主日礼拝（聖餐式）と呼ばれる毎週日曜日10:30AM～の礼拝は、子ども大人も自由に参加できる。聖書など必要な物は教会に用意してあるので、早起きして気軽に参加しよう。初めて訪れる人でもあたたかく迎え入れてくれる場所だ。7月14日（土）2:00PM～にはチャペルコンサートも開催。詳しくはホームページにて。 ☎ 06-6581-5061 <http://www.nskk.org/osaka/church/kawaguchi/>



大阪府立江之子島文化芸術創造センターの入口前には府庁舎があったことを示す石碑がある。

市場、府庁、そしてアートへの街へ。

川口居留地や江之子島政府など、フロンティアとして開発されたものの、半世紀ほどでその歴史は幕を下ろした。しかし、クリエイティブをキーワードとして、新たな歴史が始まろうとしている。

大阪府庁を改装して開館した大阪府工業奨励館は、加えて鉄筋コンクリート造の会館を新たに建設、その地下には約10万冊の蔵書を持つ図書館機能も併せ持っていた。中小企業を

対象とした機械・金属・電気・燃料などの技術指導や調査研究が主な業務で、大正時代らしく、大阪の産業界を底上げしようとする肝煎りの施設だった。その後、改修や増築を経て、また大阪大空襲による戦災を受けつつも、名称を変え、大阪府産業技術総合研究所が平成8年（1996）に和泉市に移転するまで存続し、平成12年（2000）になって建物は閉鎖された。そして2012年4月、新たに大阪府立江之子島文化芸術創造センターがオープンした。

大阪府が所有する美術作品の収蔵・展示など、これまで大阪府立現代美術館センターが担っていた機能を受け継ぎながら、大小4つの展示室と8つの多目的ルームを使ってアートやデザインに関する情報発信を行っていく。地下にはカフェも開店したほか、ゆくゆくはブックストアをオープンする計画もあるという。センターのこれからについて、運営に携わる建築家の高岡伸一さんはこう話す。

「アートと言っても幅を広く持たない。音楽、デザイン、建築、あるいは都市計画やまちづくりなど、大阪という都市を魅力的にするクリエイティブな活動であれば何でも取り組んでいきたい。いろいろな人の活動を、一旦呑み込んで、このセンター流に解釈して発信し直す。そんな場所になれば良いと思っています」

滑り出しは順調のようで、オープニング企画展も盛況のうちに終了。先日はスロベニアから来日したパフォーマンス集団に、滞在中の制作現場を提供する代わりにワークショップを行ってもらうなど、アーティスト・イン・レジデンスのような試みもあった。魚市場、政府、そして産業振興と役割を変

大阪府立江之子島芸術文化創造センター

センターの独自企画を開催しながら、展示会やセミナーなどでの貸し室利用も随時受付中。大阪府所蔵の美術作品の管理・活用も担う。ホームページではイベント情報と共に、作品を鑑賞できる「インターネット美術館」なども。現在、センターでは施設の愛称を募集中。これからの展開が楽しみな施設だ。☎06-6441-8050
www.enokojima-art.jp



津波・高潮ステーションで、「海より低い街」大阪を知る。

古くから水害に悩まされてきた大阪だが、その危険性は今も潜在している。海水面より低いエリアが多く、地震発生時の津波や高潮による被害が大きいと予想されるからだ。東日本大震災が起こったことで津波とその対策に関心が高まったが、2009年に開館した「津波・高潮ステーション」は、それを体験して学べる貴重な施設だ。

ジェーン台風や室戸台風などの際にどんな被害があったのか、展示や映像などでわかりやすく学べるほか、一番の目玉は「ダイナキューブ」という津波災害体感シアター。前面、両側面と床面の迫力映像と、それに合わせて床が震動する工夫もあり、津波の恐怖を身をもって知ることができる。映像のストーリーも素晴らしく、水門や防潮堤の存在をアピールしつつも、それがうまく機能しない場合もあるという想定外の状況をも見据えたとても現実的な内容。公共施設でありながら、「お上に頼るばかりでなく、自分の身は自分で守る」という意識を高めてくれるあたりは、実に大阪らしいと言えるのだ。



津波・高潮ステーション

地下鉄阿波座駅徒歩1分の好立地。東日本大震災後に一気に来館者が増えたというもうなずける。☎06-6541-7799
10:00AM～4:00PM 月曜日（祝・休日の場合は翌平日休）入館無料



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

祭りの季節が
やってきた!



◎今月の授業①

【夏祭り】

2012年7月講座『御霊神社 夏大祭』連動企画

「大阪の神さん仏さん〈特別編〉大阪の祭りど〆水。」

講師／釈 徹宗（相愛大学教授）

高島幸次（大阪大学招聘教授・大阪天満宮文化研究所）

ゲスト／小川 清（[平岡珈琲店]店主）

御霊神社の夏祭りでは、140年ぶりに船渡御が復活！
大阪の祭と〆水、の深い関係を、おなじみのコンビが解説。

昨年7月に開催された御霊神社の夏大祭は、大きな注目を集めることとなった。明治維新以降は途絶えていた「船渡御」が、神社の氏地である船場の人々の努力によって、なんと140年ぶりに復活したからだ。同時に、江戸時代から続くもう一つの恒例行事であった「武者行列」も復活。これは、中之島の蔵屋敷に詰めていた武士たちが甲冑を身につけて練り歩いたことから始まったもので、昨年は約200人の地元有志が猛暑にも負けず鎧兜をまとい、弓を携えて船渡御にも随行した。ところで船渡御と言えば天神祭だけだと思われる人も多いかもしれないが、そうではない。御霊神社でも安永9年(1780)から90年間も船渡御が続いていたように、大阪において祭礼や宗教行事と〆水が結びつく例は多い。さらに日本全国へ目を向ければ、神様を船にのせて海を渡るといった祭りはあちこちに見られる。お祭りを考える際には切り離せないキーワードである〆水について、ナカノシマ大学ではおなじみの名コンビ、釈先生・高島先生に語っていただく。



募集要項	「大阪の神さん仏さん〈特別編〉大阪の祭りど〆水。」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／7月18日(水) 7:00PM～8:30PM(開場6:30PM～)	
	会場／愛日会館	
	受講料／1,500円	
	定員／100名	
	主催／ナカノシマ大学事務局 協力／御霊神社 大阪21世紀協会	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学7月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

「事実と異なる架空の地図こそ、当時の人々の心象を推測する手がかりとして楽しみましょう」と本渡さんが古地図の遊び方をレクチャー。



3月23日(金) ナカノシマ大学4月講座

「大阪の古地図の味わい方」

@中央電気倶楽部 講師／本渡 章 (作家)

東京で始まった古地図の人気は大阪にも上陸。関連書籍が続々と発売され、古地図を片手に街を歩くツアーなども盛況だ。そんな最近の流行りの追い風を受けて、4月に開催されたナカノシマ大学も大入り満員に。大阪の古地図について多数の著書がある作家・本渡章さんに会えるという、100名を超える受講生が中央電気倶楽部に集った。

さすがはエキスパートらしく、本渡さんはまず地図そのものが宿す魅力について語り始めた。

「地図は人間の思想の変化を示す敏感な指針である。人間がつくったもので、文化と文明をうつしだすこれほどすぐれた鏡は、ほかに存在しない」(『地図と人間』ノーマン・J・W・スローワー)

本渡さんの引用どおり、地図は作者の思考をよく映す。それと同時に強調したのが、人間の頭の中を反映するものだからこそ現れる「欲望」についてだった。

「地図においては歪みや誇張、省略といった、いわば実態の虚像化のなかに、

作製者の意図や地理感覚が反映されているからであり、同時にその作業に同時代の政治的・社会的文脈が埋め込まれている可能性があるからである」(『日本地図史』金田章裕・上杉和央)

つまり何をどんな風に描くのかを吟味する際に、その人の個人的な願望や政治思想までが、「誇張」や「省略」となって表れるというのである。そう考えると、地図に描き込まれた道の1本、建物1軒まで目が離せなくなってくるではないか。

今回、教材として配られたのは「冷泉・円融・華山三帝御宇 難波古

絵図」という地図。作者は不詳、作成年代も江戸時代前期ということくらいしかわかっていない。これが本渡さんから受講生への「テスト」だった。「この地図を見て、どんなことが読み取れるでしょうか？」という問いかけに、受講生全員が食い入るように地図を見つめる。

地図のタイトルにもなっている「冷泉・円融・華山」とは、平安時代の天皇の名前。その時代の大坂の様子が江戸時代に描かれたというのだから、ちょっと不思議だ。本渡さんが注目したのもこの2つの年代だった。3人の天皇の時代は、天皇が直接政治に携わる親政の時代から、貴族がそれに代わって政治の実権を握るようになるまでの移行期にあたる。そしてこれが描かれたのは、幕府による全国統治が強まり、京都にいる天皇の存在感が薄れつつあった江戸時代の初め。「三帝の前の時代は、醍醐・村上天皇が自ら政治に当たり、よく治まっていた時代とされる。『御宇』という言葉からもわかるように、この地図の作者はその時代のことを羨ましく思っているのではないか」というのが本渡さんの推理。確かに地図の中には、「仁徳天皇大宮跡」など天皇に関わるものが選択的に描き込まれているように見える。

「ふと目についたものから想像を膨らませてみてください。素朴な疑問はチャンスでもあるんですよ」。古地図の味わい方を、自ら実践してみせてくださった本渡さん。次回(P10)からは、奥深い古地図の世界をさらに掘り下げていく。



左／講義の前、本渡さん所蔵の古地図に見入る受講生たち。1枚ずつに個性がある。



今月からは
毎月開催です！

◎今月の授業②

【古地図】

4月、中央電気倶楽部に開催された第1回講座は、申し込み開始と共にあっという間に満員止まりに。その後もお問い合わせを多数いただき、当然ながら講座当日も満席となった(P11)。そんな大好評の声にお応えして、本渡章さんによる古地図講座をシリーズ化して開催することとなった。

第1回目の講座は、地図そのものが持っている魅力から説き起こす、いわばイントロダクションにあたる。今回からは、数多い大阪の古地図を時代ごとに区切りながら、それぞれの時代の地図にどのような特徴があり、そしてそれをどのように読み解けばいいのか詳しく見ていくことになる。

また、受講者には各講座の中でメインとなる古地図を教材としてプレゼント。持ち帰ってじっくりと眺めるのもよし、街へ出て散策に役立てるのもよし、古地図に興味のある方なら必見の講座です！



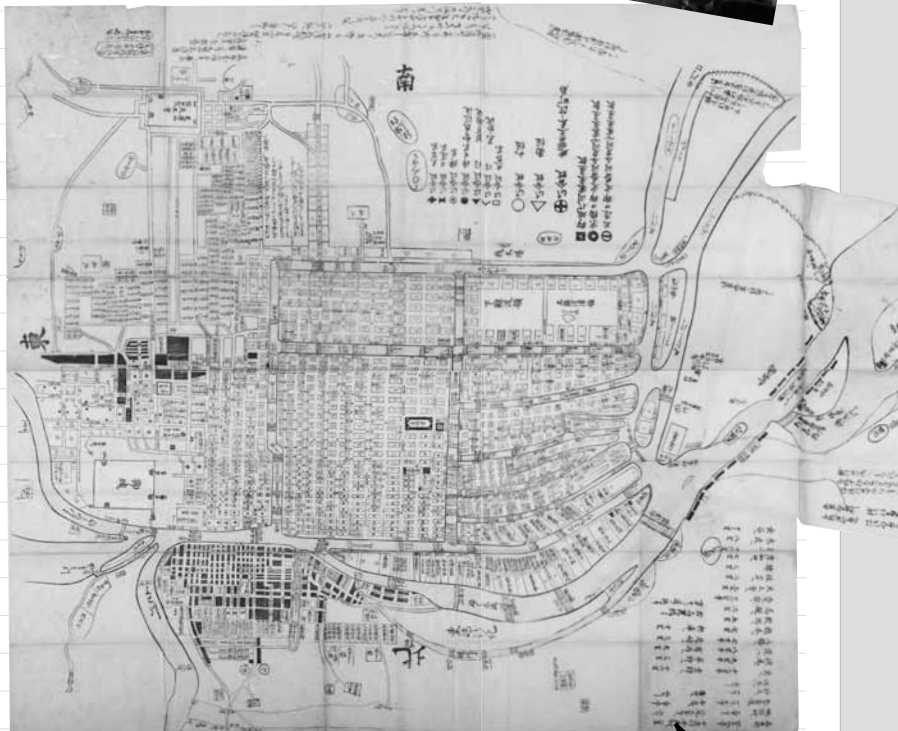
ほんど・あきら
『大阪古地図むかし案内』『続・大阪古地図むかし案内』(共に創元社)などのシリーズでおなじみの大阪古地図のエキスパート。歴史的な事実だけでなく、作者の思いや物語を古地図から読み解こうとする語り口が新鮮。

2012年7月講座

「古地図で読み解く大阪の歴史〈近世編〉①」

講師／本渡 章 (作家)

大好評にお答えして待望のシリーズ化！描かれた時代ごとに読み解きながら、大阪の古地図の魅力に迫っていきます。



◎今回の教材「辰年増補 大坂図」 元禄時代の初め頃に作成された木版を元にした本格的な町絵図。寺町などが詳しく描き込まれており、江戸時代の大坂市街の詳細がわかる。初期の大坂町絵図の代表的なもののひとつで、見ごたえあり。

今回は
8月下旬に
開催！

「古地図で読み解く大阪の歴史〈近世編〉①」

日時／7月26日(木)

7:00PM～8:30PM(開場6:30PM～)

会場／大阪市中央公会堂 小集会室

受講料／2,500円(教材費込み)

定員／100名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学7月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。6月のラインアップはこんな感じ。

6	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ「オンナ哲学カフェ」定員:50名程度 女と哲学をめぐるさまざまなことについて語り合います。オンナの抱える問題に関心があれば生物学的性別問わず参加可。
8	金	7:00PM～ 9:00PM	三十路カフェ「三十代の健康」定員:20名程度 今回は三十代からの健康について考えてみたいと思います。三十代の方は勿論、そうでない方も是非ご参加ください。
9	土	2:00PM～ 4:00PM	マンガカフェ17「マンガとく萌え」で街おこし?」定員:50名程度 美少女キャラクターなどを活用した街おこし、くご当地におけるマンガ文化、キャラクター文化の可能性を考えます。
13	水	7:00PM～ 9:00PM	プロジェクト・ミーティング「アートから政治を考える」定員:30名程度 哲学カフェの名マスターとタッグを組み、政党政治や代理民主主義ではない、自治の力について、話し合ってみようと思います。
15	金	7:00PM～ 8:30PM	学生プレゼンテーション「阪大生によるモノづくりの提案」定員:50名程度 大阪大学基礎工学部でシステム科学を学ぶ学生のアイデアや実際に作った作品を見て、モノづくりに関して話し合います。
19	火	7:00PM～ 9:00PM	オルタナティブカフェ「建築と自治を考えてみる」定員:30名程度 公共空間に“自主的”に建てた建造物と、それをめぐる自治のあり方について、事例を挙げながら皆さんとお話します。
22	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／コレージュのかせつ2「みんなで企画を考える」定員:30名程度 コレージュでこれからどんな冒険ができるのか、どんなことを誰とどのように(ともに考える)ことができるか、話し合います。
29	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「耳で触れる哲学―哲学ラジオの試み」定員:50名程度 眼で読む哲学、口で語る哲学に対して、耳で聞く哲学を実践し、「哲楽」の魅力について、みんなで考えてみましょう。

会場／アートエリアB1 参加費／全て無料 当日先着順入退場自由 問い合わせ／[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)
☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学
21世紀
懷徳堂

大阪大学21世紀懷徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

1	金	1:30PM～ 3:00PM	「おもしろ日本語学 ～ことばの意味」小矢野哲夫(大阪大学大学院言語文化研究科・教授) 受講料／ 1,575円 語の意味はどのように理解されているのか、同じ語であっても使い方によってどのように意味が変化するかを観察し、 多義語の構造、同音異義語、類義語と反対語など、語の意味のさまざまな側面に目を向けます。
2	土	1:30PM～ 3:00PM	「古代語の謎を解く」蜂矢真郷(大阪大学名誉教授・中部大学教授) 受講料／1,575円 古代のことばについて、形や意味を変えながら現代でも用いられるものを中心に、成り立ちや由来を考えます。分かりにくいところに 迫る時には謎解きのおもしろさが、由来に迫る時はルーツを探るおもしろさがあるでしょう。

会場／大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html> ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島)☎06-6222-5224

●大阪大学21世紀懷徳堂i-spot講座 大阪大学が大阪市と共同で淀屋橋odona2階「アイ・スポット」で開催する講座です。

25	月	6:30PM～ 8:00PM	「ギリシア神話を旅する―悲劇の王妃『メディア』を読む／観る―」加藤浩(大阪大学大学院文学研究科・ 准教授) エウリピデス『メディア』は、紀元前431年に上演されました。この講座では、メディアが子供の殺害を決意する瞬間にス ポットを当て、今なお、共感と畏怖を与え続けているドラマの実像に迫りたいと思います。
----	---	-------------------	--

会場／淀屋橋odona2階「アイ・スポット」 受講料／無料 定員／30名(先着順) 申し込み・問い合わせ／アイ・スポット☎06-4866-6803

●大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」 「専門分野の講義」&「料理実習」で“学問するココロ、が実践的に身につきます。

7/17 18	火・ 水	6:30PM～ 9:00PM	「発生学的鶏料理考」仲野徹(大阪大学大学院医学系研究科・教授／生命機能研究科・教授) すべての細胞がたった一個の受精卵からできる過程を調べるのが発生学。今回は「からだというのはどうやってできてるのか」につ いてお話をした後、B級グルメ鶏料理フルコースを「この臓器はこうやって発生して、こんな味、歯ごたえになるのか」と思いながら楽し んでもらうという趣向です。課題料理＝鶏モツ煮、カリカリ鶏皮のサラダ添え、鶏ガラスープ、とりそぼろ丼
------------	---------	-------------------	--

※いずれか一日をお選びください。 対象／どなたでも(高校生以上) 受講料／2,000円 定員／各日24名(応募者多数の場合は抽選) 会場／大阪ガスクッキング
スクール千里 申込受付期間／6月1日(金)～17日(日) web申込受付／6月1日(金)9:00PM～ 電話受付／6月7日(木)11:00AM～ ※当選者へは6月19日
(火)より順次案内を送送。 申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>

21世紀の懷徳堂プロジェクト 6月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懷徳堂プロジェクトとは… ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、
大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!(OCC!!)では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている
講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

1	金	9:00AM～/ 7:00PM～	「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金) ☆毎日開催☆年中楽しめる!バドルボード!バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!	会場 D
8	金	7:30PM～	「書店の未来は目の前に?仮想ブックショップ『nomazon』とは?」 参加料:2,000円(ワンドリンク付き) Amazonのリストにはない本だけが集まった仮想ブックショップ『nomazon』を運営するメンバーによる懇親会付きトークショー。	会場 O
10・13	日・ 水	10日 11:00AM ～2:00PM 13日 7:00PM～ 9:30PM	「ポーポー屋・料理教室『沖縄料理・タコライス&青パパイヤシリシリー♪』」中東ゆうこ(ポーポー屋) 参加料:4,500円 タコライスは沖縄が発祥の地。夏の定番!タコライス&沖縄野菜・青パパイヤ料理♪ 3回編②	会場 N
11	月	7:30PM～ 9:00PM	「落語講座～入口遊びで出口は文化」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円(テキスト付き) 初心者のための落語講座。発声や心意気をプロに学びます。日常の話し方にも役立ちます。	会場 F
12	火	7:30PM～ 9:30PM	「石原正一のヨミすぎ!～古今東西名作朗読会～」石原正一(役者・作演出家) 受講料:1,500円 小説漫画戯曲を参加者全員で声に出して読みます。今月は大阪の代表劇団・南河内万歳一座の初期傑作『唇に聴いてみる』。	会場 A
16	土	1:00PM～ 3:00PM	「nicohohoと作る父の日アイシングクッキー」ふくろうと猫/根岸よしこ(アクセサリ作家) 参加費:3,675円 持ち物:クッキー持ち帰り用タッパー ビール型のクッキーや模様の入れ方など新しいチャレンジを楽しめます。	会場 K
16	土	2:00PM～ 4:00PM	「工作教室Coppa!! -トーテムポールを作ろう!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 料金:1,500円 空箱やダンボールなどを積み上げて、トーテムポールを作りましょう!	会場 C
16	土	4:30PM～ 6:00PM	「父の日手づくりフラワーアレンジメント教室」瑞季 旭凜斎(華アトリエみずき主宰) 受講料:5,000円(花 材・花器・ケーキセット込み) お菓子の入った父の日のフラワーギフトを作ります。甘い物好きなお父さんにプレゼントしませんか?	会場 M
18	月	7:00PM～ 9:00PM	「Midosuji Talkin' About vol.1『Favorite Music』」Duane Levi(KMCオーガナイザー) 参加無料 We'll hear Duane's presentation about his experience in the music business and then talk about our favorite music.	会場 H
21	木	7:00PM～	「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費:1,500円(お茶付き) 今回は、グリム童話を読む予定です。	会場 G
23	土	3:00PM～ 5:00PM	「ファディスタに習う『楽しい旅のポルトガル語講座』」津森久美子(Fadista) 参加費:2,500円(別途飲食 代が必要) 本格リスボンファドの歌手・津森久美子と、ポルトガル旅行が一層楽しくなるヨーロッパのポルトガル語を学びます。	会場 B
23	土	7:30PM～	「『レユニオン島の音楽夜会』―飛んでレユニオン―」トーク:海老原政彦(音楽ライター) 受講料:1,500円(ワンド リンク付き) ワールドミュージックに詳しい海老原氏に、レユニオン島での音楽体験とクレオール文化の魅力について語ってもらいます。	会場 L
24	日	10:00AM～ 11:30AM	「カフェで一緒に夏の歌を歌いましょう」西影純枝(ソプラノ) 受講料:2,000円(ケーキ・コーヒー付き) ヴォイストレーニングを受けて、時計台の鐘、雨降りお月さん、ゆりかごの歌などを伸びやかな声で歌いましょう。	会場 J
25	月	10:30AM～ 12:00PM	「コミカレOSAKA昼版!学びが楽しくなる魔法のノート術♪マインドマップ入門」江守梨絵 受講料:2,000円 申込先: http://kokucheese.com/event/index/35232/ 発想・記憶・整理が楽に出来る話題のノート術入門。子供の勉強にも役立ちそう!	会場 E
27	水	7:00PM～ 9:00PM	「御堂筋Talkin' About vol.17『大阪市内の昆虫』」桂 孝次郎(「鞆公園の自然―大阪街なか昆虫 ウォッチング」著者) 参加無料 大阪市内にも小さな生命が息づいています。今回は大人による昆虫トークです。	会場 I

A common café ☎06-6371-1800

B PORTUGALIA(ポルトガル料理レストラン)

☎06-6362-6668

C morrison(studio) ☎080-3113-4816

D 若松の浜 ※お問合せ:アクアスタジオ

☎06-6125-0550

E ULTRA 2nd COFFEE AND DINER

☎06-6949-8804

F フレイムハウス ☎06-6226-0107

G 貸本喫茶ちようちよぼっこ

<http://www.geocities.co.jp/chochobocko/>

H フラムテラス

http://www.osakagas.co.jp/flamm_t/

I 愛日会館 ☎06-6264-4100

J カフェ アンドール 本町店 ☎06-6243-0584

K タビエスタイル ☎06-4963-7450

L CHOVE CHUVA(ジョヴィ・シュヴァ)

☎06-6225-3003

M カフェダイニング 翠cafe ☎06-6535-7747

N ポーポー屋 ☎06-6531-7827

O スタンダードブックストア ☎06-6484-2239

私は子どものころから読書が嫌い、小学校、中学校のころは、夏休みの読書感想文のために、年に1冊読むのがやっとだった。

高校2年のとき、友人の影響で小説に目覚め、ドストエフスキーやカフカを読みはじめたが、雰囲気浸っていただけで、内容はほとんど理解していなかった。

大学に入って時間できたが、相変わらず読書量は少なく、主な読書タイムは通学の電車内というありさまだった。当時から小説家になりたいと思っていたので、読むより書くことに熱中していたが、これはまったくの本末転倒だった。よいものを書くためには、まずよいものを読まなければならない。読まずに書くから想いが表現できず、表現できないからあれこれ文章をいじくり、そんなことをしているから読む時間がなくなるという悪循環だった。

それでも何冊かの本は読み、今なお強くその影響を受けている作品もある。

たとえば、カミュの『異邦人』は、その独特な文体と、主人公ムルソーの虚無的な雰囲気、魅了された。何度も読み返し、気に入った表現に傍線を引いて、似たような文体を身につけようとした。文体ばかりでなく、殺人を「太陽のせい」とムルソーに言わせたカミュの慧眼にも強く惹かれた。検事も弁護士も、殺人には理由があるはずという前提に立っているが、それは根拠のない思い込みだとムルソーは主張する。

信犯だから、時代を先取りしていると言える。

ほかに日本の作家では、少々遅いが太宰治も乱読した。当時、私は太宰ほどではないが、似たような恋愛問題を抱えていて、『道化の華』『姥捨』『東京八景』などを、他人事とは思えないリアルさで読んだ。気持もやさぐれ、頹廃から滅びに惹かれていったのは、恥ずかしながら若気の至りとしか言いようがない。

同じく織田作之助も好きで、短編集の『夫婦善哉』を繰り返し読んだ。そこに実名で登場するうまいもん屋は、当時、まだ何軒かが営業していて、「たこ梅」「正弁丹吾亭」「自由軒」「出雲屋」などに行つては、主人公の柳吉さながら、「フーフー口をとがらせて」食べた。

織田作之助は酒場の女給だった宮田一枝と大恋愛の末に結婚したが、一枝は子宮がんで5年後に亡くなり、織田作自身もその2年後、結核のため33歳の若さで亡くなった。文学に打ち込み、恋愛に身を焦がし、ようやく文壇に登場したのに、病魔に倒れた織田作の生涯のはかなさに、強い哀惜の念を抱いた。

当時の私は過去の作品に惹かれていて、現代作家のものはほとんど読まなかった。しかし、村上龍氏が「限りなく透明に近いブルー」で芥川賞を受賞したときには「文藝春秋」で読んだ。新聞広告に引用されていた文章が刺激的だったからだ。正確には覚えていないが、巨大なベニ

一般の人々が奉じる道徳や善も同様で、本来、そんなものに意味はないと、人間の価値観全体を鋭く批判しているところに深く共感した。

モームの『月と六ペンス』も強く印象に残っている。鳥取砂丘に一人旅で出かけたときに読み、残りのページが惜しくなるほど興奮して読んだ。画家のゴーギャンをモデルにしたこの作品は、絵のために家族を捨て、友人を裏切り、世俗の幸福に見向きもしない画家の徹底不遜が描かれている。友人の世話になりながら、相手を軽蔑し、挙げ句の果てにその妻を寝取ってしまった主人公の卑劣さに、思わずうつとりとした。

中之島ぶらぶら青春記の久坂部羊 中之島で読んだ本

そのころの私は、芸術家の身勝手や悪徳、破滅に惹かれていて、自分もそのような生涯を送りたいと思っていた。だから、ラディゲの『肉体の悪魔』も好きだった。年上の人妻マルトを凶暴な愛で翻弄する15歳の「ぼく」の嗜虐性に影響され、自分の恋人にもずいぶん無茶な要求をしたり、理不尽な問責をしたりして悲しませた。そのラディゲを高く評価し、『ラディゲの死』という短編もある三島由紀夫の小説もたくさん読んだ。なかでも好きだったのは『金閣寺』で、金閣に美的執心を抱く溝口もおもしろかったが、彼をそそのかす悪魔的な柏木により共感した。内翻足の障害を持つ柏木は、吃音の溝口に「吃れ！吃れ！」とけしかけたり、女の前でわざと転倒し、内翻足の自分を見捨てるのかと責めて、女を自分のものにしたりする。

ほかにも、溝口が米兵に強いられて、真っ赤なコートを着た娼婦の腹を雪の上で踏んで流産させたり、出征する陸軍士官の前で、女が泡だった抹茶の椀に自分の乳を搾り入れたりする場面、背徳の美と官能を感じて恍惚と

なった。

三島の作品では、『午後の曳航』も好きだった。少年が猫を解剖してその腹膜の美しさに目を奪われたり、英雄視していた船乗りが墮落して陸に上がると知ったとき、毒入りの紅茶で殺害を謀ったりする少年たちの残酷さが興趣をそそった。14歳未満の行為は罰しないという少年法を知った上での確

同じ短編集に収められた『ミルク色のオレンジ』も、少女の膣にオレンジを挿入したらミルク色に染まったというヴィジュアルな作品で、当時、産婦人科の実習で、生まれてはじめて女性器を白日の下に見て、白色帯下（おりもの）がコンデンスミルクそっくりなことを知った私は、あれが池田満寿夫の想像ではなく、実体験によるものだろうと思った。同時に芥川賞を受賞した三田誠広氏の『僕って何』は読まなかったが、三田氏が高校を一年間休学して書いた『Mの世界』という作品には興味を惹かれて購読した。高校時代から文学を目指した三田氏に共感したのだが、読んでみると明らかにドストエフスキーの焼き直しと思われるところがあつて、深刻ぶっている自分を鏡で見せられているようで、恥ずかしかった。

カフカが好きだった私は、安倍公房の『壁―S・カルマ氏の犯罪』も読んだが、まったくカフカの垂流とは思えず、これがなぜ芥川賞を受賞したのかと首を傾げた。

しかし、自分の書いているものも、すべてどれかの垂流のようなものばかりだった。それではだめで、独創的でオリジナルな作品を目指さなければと意識したが、目の前には何の手がかりもなく、ただ暗くて広大な虚無が横たわっているばかりだった。

それは今も同じで、まだその中をぐるぐるとさまよっている。あれから30年以上もたつたの。ふうつ。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年「廃用身」（幻冬舎文庫）でデビュー。現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び「破裂」は10万部を超えるヒットに。「今月発売の『小説新潮』の医療小説特集に、『深夜の病棟』という短編が出ます。医療版『数の中』で、父を亡くしたセールスマンが、父の臨終の夜に病院内で奇妙な状況に巻き込まれるホラーミステリーです。」

大阪で今何が

ラジオデイズ×リナックスカフエ代表取締役
ナカノシマ大学 緊急特別講座！

鼎談



湯浅誠
反貧困ネットワーク事務局長・元内閣府参与



平川克美
リナックスカフエ代表取締役



中島岳志
北海道大学大学院准教授・政治学者

2008年、派遣労働の実態や広がりがつづつある所得格差の問題を明らかにした著書『反貧困』で、一躍注目を集めることとなった湯浅誠さん。東京・日比谷公園に開設した「年越し派遣村」では村長を務めるなど、言説だけでなく実際の活動も大きく報じられた。2009年には、当時の副総理兼国家戦略担当大臣であった菅直人の要請で、内閣府参与・緊急雇用対策本部貧困・困窮者支援チーム事務局長に就任し、政治の中枢が動くリアルな現場を体験。そして今年3月、自らが関わった事業の実施が軌道にのったため、参与の辞任を表明した。

そんな湯浅さんが新たな活動拠点として大阪に注目し始めているという。中央で日本の抱える問題を間近に見てきた湯浅さんが、大阪に目を向けるその理由とは一体何なのだろう。対談の相手は、『小商いのすずめ』や『移行期的乱世の思考』などで経済成長を目指す新しいビジネスのあり方を説くリナックスカフエ代表取締役の平川克美さん。さらに、ABC朝日放送のニュース番組『キャスト』でもおなじみ、新進気鋭の政治学者である中島岳志さんも登場。大阪で何が起こきようとしているのか？ まさに今、話を聞きたい3人が揃う必見の鼎談です！

「大阪で今、何が起こっているのか？」

日時… 6月19日(火) 7:00PM～8:30PM(開場6:30PM)
会場… 中央電気倶楽部
受講料… 2000円(ワンドリンク付き) 定員… 100名
主催… ラジオデイズ ナカノシマ大学

◎申し込み方法

①インターネットからのお申し込み
専用申し込みページの案内にしたがって「チケット購入サイト」へアクセスし、チケットをお買い求めください。<http://nakanoshima-univ.com/>
②郵便振替でのお申し込み
下記の口座番号にご入金ください。ご入金を確認でき次第、チケットをお送りします。なお、入金通知が届くまでに1週間ほどかかる場合があります。お電話で事前に確認していただくことをおすすめします。

口座番号… 00990151299267 加入者名… カイチョンマルビー
※ご注意 こちらの講座は、受講料前払い制です。受講料をお支払いいただいた時点で申し込みが完了します。フアックス、ハガキでの受付は致しません。ご了承ください。



第九話

中之島フェスティバルタワーへ① 大阪の元氣と中之島の賑わい

これまで8回にわたって、中之島という場所とそこに建てられてきた建築を中心に、朝日新聞の歴史を辿ってきた。そこには130年という長い時間を刻んできた場所に対するこだわりと、時代を切り開く斬新な建築を生みだそうとする、メディアの先進性がみとれた。今秋に竣工を予定し、工事もしよいよ終盤を迎えた中之島フェスティバルタワー。新しく誕生する超高層タワービルをその系譜の延長線上に置いたとき、そこから何がみえてくるだろうか。最初の構想発表は2007年。中之島にツインタワーが出現する計画は、世間を驚かせるのに十分なインパクトだった。四つ橋筋を挟んだ両側の敷地のまず東側、新朝日ビルを解体して1本目を建て、そこへ新聞社の本社を移した後、西側の朝日ビルと朝日新聞ビルを建て替える。ツインタワーが完成するのは2018年の予定だ。



都市美を
伝えて
朝日新聞と
中之島の130年
取材文／高岡伸一

設計案はコンペで選ばれた。基本的な構成は提案時から変わっていない。
画像提供／朝日新聞社

大切に使い続けられる。「フェスティバルホールを壊すのは、カーネギーホールを壊すのと同じだ」というアーティストもいた。ホール部分を残して建て替える案も検討したが、技術的、法的な理由などで現実的には不可能だった。最終的には、最新のシミュレーション技術を駆使して、フェスティバルホールの響きを継承する挑戦に踏み切った。中之島フェスティバルタワーは、低層階にホールと朝日新聞社の本社機能、そして商業施設をおさめ、高層のタワー部分には、テナントオフィスが人居する。最上階にはカンファレンスルーム「フェスティバルスイート」と、関西初となる名レストラン「ひらまつ」の新ブランド、「ラ・フェットひらまつ」がオープンする。新しい超高層ビルが次々と建設され、その多くがテナント誘致で苦戦するなか、フェスティバルタワーのテナントは次々と決まっていた。その理由を、計画当時に大阪本社代表を務めた池内文雄常務取締役は、「ある意味我々が素人だからだ」と笑いながら話す。ビル



中之島フェスティバルタワー



の耐震性能は最高のSグレード、天井高を3mとし、照明にはLEDを全面採用するなどグレードを高く設定した。不動産や開発のプロならもっとシビアに、最小の投資で最大の利益を目指すのかもしれないが、「我々はとにかく入ってみたいと思わせる魅力的なスペース、50年、100年と使い続けられるビルを目指した」という。そして何より、「大阪の元氣と中之島の賑わいを生みだしたかった」と池内氏は語る。それは大阪で創業し、中之島で新聞をつくり続けてきた朝日新聞の使命のようなものだ。そして朝日会館にはじまり、フェスティバルホールが引き継いだ、文化の発信地としての役割を担うこと。中之島フェスティバルタワーは、ホールを中心に多くの人がが中之島に集い、最高の時を過ごしてもらえる場になることを目指している。

プロダクトデザインに始まりアートや食に関する提案など、幅広いデザインワークを展開する「graf」。中之島にあるショップの一角で、今年2月から新たな試みが始まっている。「the nature library」と名付けられ、「nature」というテーマのもとにセレクトされた本が並び、自由に読んだり買ったりできる。

本のセレクションを手がけるのは、「graf」の代表・服部滋樹さんとも親交のある加藤博久さん。本業はボルボ専門の中古車ディーラーながら、ネット販売を中心とする「BOOKS+コトバノイエ」の店主であり、カフェや美容室などのブックセレクションも多く手がけている。

「最初のオフアールは『自分たちがデザインする時の基になっているモダンデザインや工芸の本を』ということだったんですが、それでは直球すぎて面白くない。そこで思いついたのが、そういったデザインの根源にある『自然』だったんです」(加藤さん)

そうして決まったテーマのもと、「plants/animal/ocean/space/earth」の5つのジャンルに分けて、2ヶ月ごとに本を入れ替えていくことになった。



本を置いて売るのが加藤さんの目指すところではない。「僕が選ぶ本の中から、[graf]のメンバーが置いておきたいと思うものがあれば店に残しておいてもらう。するとそれが[graf]の『ライブラリー』になる。それを核として、人が集まる場ができれば良いですね」。加藤さんの書店である「BOOKS+コトバノイエ」については<http://kotobanoie.com/>へ。

the nature library

graf ビル3階のショップにて展開中。
☎06-6459-2100 (graf shop)
12:00PM～8:00PM (日・祝～7:00PM) 月曜休 (祝日の場合は翌日休)

本好きがつい唸る本棚ができた。

5月まで並んでいた「animal」では、動物の写真集などそのものズバリのものから、動物をモチーフにした作品の多い伊藤若冲の解説本など「そう来たか」と思えるものも。6月からは「ocean」

がスタートしたばかりだが、どんなタイトルが並んでいるのか楽しみだ。

ショップのお客さんには大好評で、「本を買ってくださったお客さんから『これは誰が選んでいるんです

か?』って、よく聞かれるんです」とシヨップで働く田中文代さん。また、仕事の参考書を探しに来る「graf」のスタッフも多いそう。

「本って、コンテンツとパッケージが一体になった唯一の存在でしょう。だからそれを立体として愛でてほしい。こうやって分かりやすく置けば、大きな書店では見つけられなくて買わない本でも買ってもらえる。このライブラ

大阪府立中之島図書館は多くの企業が集まる中之島にふさわしく、ビジネス関連資料の収集や、それを活用したサポートに力を入れている。その一環として所蔵されている企業社史は、各社がそれぞれに自社のあゆみを総合的にまとめた貴重な資料である。

現在、開架されているものだけでも約3000冊、書庫の蔵書なども合わせれば約5000冊を所蔵。図書館から寄贈を依頼する場合や企業から直接送られる場合もあり、その数は昨年度だけで約150冊強にのぼる。ビジネスマンが得意先のことを勉強したり、就職活動中の学生が企業研究のために利用することもあるそうなのだが、一般の人にとってはなかなか手にとって

見る機会が少ないのが現実だ。

そんな社史にもっと関心を持つってもらうべく開催されているのが、「みんなで選ぶ社史グランプリ」だ。2010年以降に刊行された社史の中から特色ある社史をピックアップ。ビール会

社や食品会社ならば「美味しさを求めて部門」、鉄道会社なら「線路はつづくよ部門」、百年史を集めた「びったり百年史部門」など5部門に分かれ、計27社の社史がエントリーされている。参加者はそれを見て、気に入った本の

面白いと思ったポイントや感想を書いて投票するという趣向だ。

昨年から同館で社史コーナーを担当している安達明子さんに、社史の魅力について聞いてみた。

「社史は会社内や関係者だけに配られることがほとんどで、一般の人の目にふれることはありません。でも、たとえば水産会社の社史は日本の近代漁業の歴史そのもので、歴史の重みを感じられます。鉄道会社の社史にはレジャー施設やデパートのことが書かれて

いて、自分に関わりのあるものを発見できる魅力もありますね」

社史と言えば布張りの表紙の重厚なものを思い浮かべるが、安達さんによれば社史にも時代によって傾向があり、最近カラー写真やグラフなどを多用した、読みやすさやデザイン性を意識したものも増えつつあるのだそう。「社史は、社内に編集委員会がつくられて、どんなものにするのか話し合われることが多い。だから、どこを工夫しているのかも社史の見どころの一つ。それぞれに味があるんです」と安達さん。お気に入りの1冊は「見つかるか、この機会に手に取ってみるとしよう」。



27社の社史は館内の階段ホールに展示中。社史収集に力を入れている神奈川県立川崎図書館と同時開催するもので、府県をまたいで開催される例は珍しい。下右／先月には、ゲストを招いて社史に関する講演会も行われた。

大阪府立中之島図書館「みんなで選ぶ社史グランプリ」

各社の制作担当者のメッセージと一緒に展示されている社史を見て投票する。投票期間は6月13日(水)まで。社史展示は6月23日(土)まで。☎06-6203-0474 9:00AM～8:00PM (土曜～5:00PM) 日・祝休

トウニン月報

2012年6月1日発行

若き天才画家。 佐伯祐三が描いた街角

大阪・中津に生まれ、創作の場を求めて渡ったパリで若い命を散らした洋画家・佐伯祐三。享年30歳という短い人生で残した絵画の数々は、没後、熱心な収集家により大阪

市に寄贈された。

現在、大阪市立近代美術館（仮称）心斎橋展示室では「佐伯祐三とパリ」ポスターのある街角」と題し、所蔵している約50もの作品と共に佐伯の生涯を追うことができる。

出展されるのは主にパリの街角や店先を描いたもの。創作への激情が筆に表れたかのような荒々しいタッチ、独特の色彩感覚が生み出す重厚な街角をじっくり鑑賞してほしい。島民としては、佐伯が一時帰国した大正15年（1926）に、安治川沿いの川口（P5）に停泊する船を描いた「汽船」は見逃せない。特集でもご紹介したような川口にただよう異国情緒は、若き天才画家の創作意欲までも大いに刺激したようだ。（江口由夏・本誌）



佐伯祐三 (1898-1928)

大阪市立近代美術館（仮称）心斎橋展示室
「佐伯祐三とパリ～ポスターのある街角～」
期間／7月16日（月・祝）まで
開館時間／11:00AM～7:00PM
休館日／水曜日
入館料／500円
問い合わせ／大阪市総合コールセンター
☎06-4301-7285（8:00AM～10:00PM・無休）



佐伯祐三「レストラン(オテル・デュ・マルシェ)」1927年 大阪市立近代美術館建設準備室蔵



佐伯祐三「汽船」1926年頃 大阪市立近代美術館建設準備室蔵



船に揺られて イルミネーションと ジャズの生演奏を

大阪水上バス
「イルミネーション ミュージックボート」
乗り場／淀屋橋港 運航日／6月・9～11月の第1土曜日
出航時間／6:30PM～7:30PM～ 所要時間／約40分
料金／大人1,800円、小学生1,300円（要予約・ワンドリンク付き）
申し込み・問い合わせ／アクアmini予約センター ☎0570-035551

橋や護岸のライトアップによって浮かび上がる美しい風景は中之島の魅力の一つ。中でも八軒家浜船着場が整備され、昨年から天満橋のライトアップも始まった大川沿いは、イルミネーションによる光りが重なり合うゾーンになっている。

そんな大川の岸边でもっと楽しく過ごしてもらいたいと始まったのが大阪水上バス「イルミネーション ミュージックボート」だ。淀屋橋港を出発したクルーズ船は大川沿いに北上していき、美しいイルミネーションが映えるエリアを次々と巡っていく。クルーズのハイライトとなるのは大阪城の迫力あるライトアップ。季節や時間によって光りの種類やパターンが移り変わる仕掛けなので、同じクルーズでも毎月・毎便少しずつ異なる彩りが楽しめるのも魅力的だ。そして「ミュージックボート」という名のとおり、船上ではジャズバンドを中心とする生演奏もあり。美しい音色と光の演出を同時に楽しめる贅沢な夜が過ごせそうだ。（江口由夏・本誌）



大阪万博をふり返る シンポジウムが本誌

中之島発祥である大阪大学の21世紀懷徳堂が企画・編集した『なつかしき未来「大阪万博」』が刊行された。昭和35年（1970）、人類の進歩と調和」をテーマに行われた大阪万博は、国内はもちろん

のこと世界77カ国から6400万人を超える人々を集めた空前絶後の巨大なスケールだった。高度経済成長期のまっただ中にあった日本において、それは明るい未来を象徴するものとして国民を勇気づけ、今なおその盛り上がりを懐かしむ声は多い。

この本の第1部は、大阪大学21世紀懷徳堂が企画した大阪万博四〇周年の検証 シンポジウムで発表された関係者3人へのインタビュー。万博の計画に携わった田嶋、SF作家の小松左京、前衛芸術家集団の具体美術に参加した今井祝雄の各氏が当時をふり返る。第2部ではそのインタビューを受けて、齋田清一阪大総長（当時）や学内外のゲストらが、大阪万博によってもたらされたものや、現代においてのよなものとして捉えられるのかを語り合っている。開催時の写真もたっぷり掲載され、アルバムとしても見てえがある。

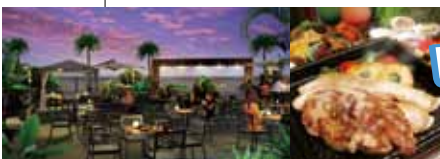


『なつかしき未来「大阪万博」』（創元社・2,415円）
巻末には会場内で配られたミニマップや年表をまとめた付録、3氏へのインタビューを収録したDVDも付いている。一般書店にて発売中。
問い合わせ ☎06-6850-6443
（大阪大学21世紀懷徳堂）

中之島をがけめぐる書店の 自作ポスター集



京阪シティモール屋上で ビールを飲もう！



ザ オリエンタルヴィレッジ ビアガーデン
期間／9月下旬まで（荒天時中止）
時間／4:00PM～11:00PM
（フードLO10:00PM／ドリンクLO10:30PM）
料金／BBQ（飲み放題付き）3,900円
BBQ食べ放題＋飲み放題5,000円
問い合わせ ☎06-4794-9227



ルーフトップバー「OLIの絶景ビアガーデン」
期間／9月中旬まで（荒天時中止・6月は平日のみ）
時間／5:30PM～11:00PM（LO9:00PM）
料金／飲み放題1,500円（120分／オーダーは30分前まで）、料理は400円～
問い合わせ ☎06-6940-2876

ユーが楽しめる。そして一つのビアガーデン「OLI」は、イタリアンを中心に多彩にもビールの進みそうなメニューが楽しめる。そして一つのビアガーデン「OLI」は、イタリアンを中心に多彩にもビールの進みそうなメニューが楽しめる。そして一つのビアガーデン「OLI」は、イタリアンを中心に多彩にもビールの進みそうなメニューが楽しめる。

バイクに乗って、あちらのビルからこちらの事務所へ。配達での営業を中心に営業する「カペラ書店」は、中之島をはじめキタ周辺に多くの得意先を持つ老舗書店。配達に行った際に注文や好みを聞いて、「こんな本が入りました」と届けるのも古き良き商いのスタイルだ。

そんな「カペラ書店」の名物とも言うべきなのが、お店が無償で自作するポスター。大型店の進出に対抗するべく2002年から始めたもので、社長の秋末勝さんから引き継ぎ、現在は店長の澤井嘉子さんが担当している。ポスターのお題となる本は主に分冊百科などのシリーズ企画ものが多い。「シリーズものは、一度注文してくれば定期的にお客さんのところに配達に行けるようになる。そこでまた別の注文を聞いたり、うちのやり方に合っているんだ」と澤井さんは話す。

2011年までの10年間に制作されたポスターは60作品。昨年末にはこれまでの作品をまとめた冊子を自費出版、そして今年4月には、同じく配達に力を入れている谷町6丁目「隆祥館書店」の協力を得て、原画の展覧会も行った。出版社による企画ものが減ったこともあり、現在は年に1〜2点ほどしか作られないというが、こうした街の書店が元気に奮闘する様子を見るのは、活字ファンには嬉しいところだろう。（大迫力・本誌）

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

昭和40年代から大阪市内の町名は大きく変わっている。それ以前に用いられていた旧町名には、街の歴史を伝える物語が隠されていた！

●『月刊島民』vol.48は2012年7月1日発行です！

老舗三流ホテルの
フロント的存在。

大阪倶楽部 辻 香織さん

由緒正しき会員制社交倶楽部ということで、会員さまは役員、大学教授、弁護士など各界のトップである方がほとんどです。そのような人生経験豊富な会員さまの会話で何物預かりなどを行うので、言葉づかいや身だしなみには非常に気を遣っています。仕事に魅力を感じる点は、文化財相关指定される近代建築が職場だということ。受付台からも伝わってくる「歴史」が仕事をやるにきてくれます。ちなみにこの度の仕事を機に休日はテレビロバ探訪もすまじになりました。

 フリルの付いたオープンカラーのシャツが、石壁の質感や照明
ペン立てともよく合っています。華やかでありつつ、来られる
紳士の方に安心感を抱かせる。紳士倶楽部の受付という難しいニュ
アンスの壁を乗り越えています。制服には私服とは違う重みがあり
ますが、それよりもくまかにしていると言えます。



うーん、深いなあ。

黄檗山 萬福寺
楠葉けい子（大学生）

おけいはん、 たっぷり宇治線

どこか中国的な趣きがあるのは、黄檗駅近くの萬福寺。
京阪電車の宇治線には、駅ごとに個性的な名所いろいろ。
新しい車両で、新しい魅力に出会う旅へ、
さあ出発です！



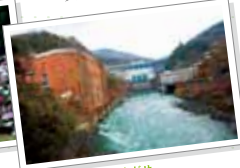
明治天皇 伏見桃山陵
桃山南口下車 徒歩約15分



まんぶくじ
黄檗山 萬福寺
黄檗駅下車 徒歩約5分



三室戸寺
三室戸駅下車 徒歩約15分



あまがせ
天ヶ瀬ダム
宇治駅下車 徒歩約50分

新型車両13000系
運行中！



発売期間：H25.4/14 まで

「宇治・伏見1dayチケット」発売中！

※詳しくは、京阪電車お客さまセンターへお問い合わせください。
Tel.06-6945-4560 9時～19時（土休日は17時まで）

※詳しくは、京阪電車主要駅でチラシをご覧ください。



おけいはん、
京阪の
人々。

www.okeihan.net